坂村真民記念館
Sakamura Shinmin Museum

タンポポだより

2014
夏号
vol.9

友の会会員の皆さまと記念館を結ぶ会報誌

朴の花ことば

さびしさにこもり
朴の花をしのび
こいしさにこもり
その花の香りを恋う
ああ
「誠意ある友情」という
花ことばのうれしさよ
タンポポ堂の朴よ
大きくなれ
わたしもお前と共に
この花ことばを
大きなものにしてゆこう

（真民64歳）

朴の花は記念館で見ることができる

館長エッセイ
開館2周年を経過して
「自分の出来る範囲で」という真民の想いを胸に

真民詩とわたし
世界に広がる坂村先生の心
仁田 茂さん

真民詩を読み解く ⑧
真民流生き方の真髄は、
ゆっくり少しずつ掘り下げて磨いていくこと
「時間をかけて」「こつこつ」

ちょっと手ほどき
砥部時代の真民さん
花ひらく晩年、深まる詩境

企画展のお知らせ
「砥部時代の坂村真民」

館長エッセイ

【第九回】開館2周年を経過して

「自分の出来る範囲で」という真民の想いを胸に

今年も3月11日を迎え、坂村真民記念館は2周年を経過しました。この間約4万3千人が来館され、全国すべての都道府県から来ていただいております。開館2周年記念特別企画展「小池邦夫と坂村真民の世界展」も、全国から絵手紙ファンの方が見えられました。

東京では、相田みつを美術館において「相田みつを生誕90年特別企画「坂村真民と相田みつをの世界展」が開催されており、すでに約5万2千人が来館され、相田みつを美術館の集客力の凄さに感激しています。

このようにして坂村真民の詩が全国に広がっていくことは、喜ばしいことであり私もそのために努力をしてきた訳ですが、しっかりと考えておかなければならない事があります。

それは、坂村真民本人がこの事をどう考えるかということです。真民が生前いつも言っていたことは、「自分の出来る範囲のことをしっかりやること。人の助けを借りてまでして、何かをすることは出来るだけしないこと」ということでした。

記念館の運営についてもそうですし、他の場所で「坂村真民展」を開催する時にも、このことをいつも念頭に置いておかなければなりません。商業ベースで行われる事業や人に迷惑をかけて無理をして集客することはしてはいけないことだと思っています。

東京での真民展の開催に当たっても、この事を念頭に置きながら、相田みつを美術館の全面的なご支援とご協力を受けて実現できました。恐らく今後こうした企画展はもうできないのではないかと思っています。真民の想いを念頭に置いて、「出来る範囲のことをやる」という原則を守っていかなければならないと思っています。

そういう意味で、私が今回の東京での真民展に力を入れているのは、東京で坂村真民を有名にすることではなく、まずは、砥部の記念館に遠くて来られない関東一円の真民ファンの皆さんに本物の代表的な詩墨作品を見ていただきたいこと。

次に、こんなに素晴らしい詩がたくさんあることを、真民詩を知らない方々に知ってもらい、真民詩と接する機会を作ることが出来るからなのです。毎日を悩み苦しみながら生きている人々に、真民詩を読んでいただき、少しでも前に向かって生きる力を湧きおこしてもらいたいと思うからです。

そういう中で、今回の真民展で初めて真民詩と詩墨作品に触れたという方々にお聞きしますと、NHKの「ラジオ深夜便」を聞いてくださった方や、日経新聞、読売新聞等を見て関心を持ってくださった方や、相田みつを美術館に来てたまたま坂村真民展を見て、真民の詩に出会ったという方々です。その方たちと話をしてみますと、ほとんどの方が真民詩に出会って本当に良かったと言ってくださいます。

こういう方々の「口コミ」で、坂村真民の詩が広がっていくことを私は一番期待しています。今回の東京での真民展はこうした潜在的な真民ファンを掘り起こす絶好の機会であったと考えています。その中には若いカップルもたくさんいました。

私はこうした方々に、私たちの出来る範囲で「どんな小さな花でもいい。自分の花を咲かそう」「一寸先は闇ではなく光である」という真民からのメッセージを届けていきたいと思っています。そのためには何が一番良いのか、この事を皆さんと共に考えていきたいと思っています。これからも皆様の温かいご支援をお願いします。

真民詩とわたし vol.9

世界に広がる坂村先生の心

仁田 茂さん（88歳）

真民さんは終戦までの11年間、朝鮮の学校で教鞭を執った。最後に赴任した官立全州師範学校での教え子が、広島県大竹市在住の仁田茂さんだ。国鉄に入り広島駅長で定年を迎えた仁田さんは、同校の同窓会「全師の会」の代表として、韓国との交流を現在も続けている。

◆耳に残る「ふーりゅー」の声

私が官立全州師範学校（全羅北道全州市）に入学したのは昭和15年のことです。広島出身の両親は全州から50kmほど離れた村で農業をしていました。

2年生になった16年春、坂村先生が赴任されました。青年の面影を宿した、まるで春風のように和やかなやさしい先生で、「女学校から来たせいだろうか」と級友と噂したものです。

先生はしばしば、机の間を歩きながら漱石の小説などを朗読しては、「表現がうまい」「風流な文章だなぁ」とほとほと感心したようにおっしゃるのです。しばしば「ふーりゅー」の声を挙げるので、「風流先生」とあだ名がつきました。

学生時代の仁田さん（後列右・昭和18年）

◆戦時下の学校生活

怒鳴ったり拳骨をふるう先生が多い中で、坂村先生は声を荒げることもなく、悪いことをした生徒を笑い顔で戒める、そういう先生でした。

一部で反日運動も盛んになりつつあり、一学年100名いる学生の9割を占めた朝鮮籍の学生の何人かが特高に引っ張られたようですが、当時の私はそのことにまったく気づきませんでした。戦時下で勤労動員も多かったので、同級生の姿が見えなくても気にならなかったのです。戦後、韓国の同級生に話を聞いて、「そんなことがあったのか」と驚いたものです。

知らなかったといえば、坂村先生が短歌を作っておられたこともまったく存じませんでした。

官立全州師範学校（現・全州教育大学校）。全羅北道は朝鮮半島最南端の全羅南道の北隣で、全州市はその中央に位置する。雪の残る校舎前で昭和20年3月の卒業式直後に撮影された

◆叶わなかった再会

海軍の下士官として山口で終戦を迎えた私はすぐに朝鮮に戻り、家族とともに命からがら日本に引き揚げてきました。

のちに「念ずれば花ひらく」の詩が恩師坂村先生の作と知りました。広島の中国電力本店で詩墨展が開催された時、お会いできるのを楽しみにしていたのですが、行き違いで再会は叶いませんでした。

定年後、国鉄時代の同僚が「四国でええ話を聞きました」と写真を見せてくれたところ、坂村先生が写っているではありませんか。「私の恩師ですよ」と、実に誇らしい思いでした。

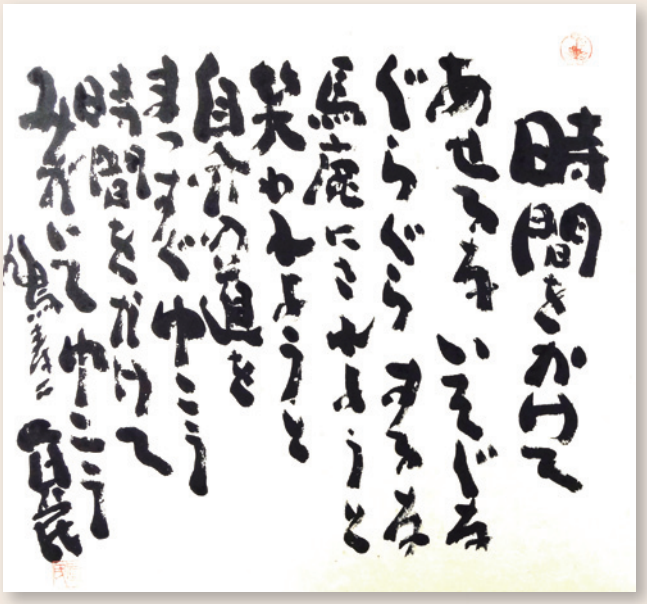
多くの苦しみを克服してこられた先生の人生と、その御心が世界中の多くの方々に伝播していることを知り、著書を読みながら涙が止まりませんでした。

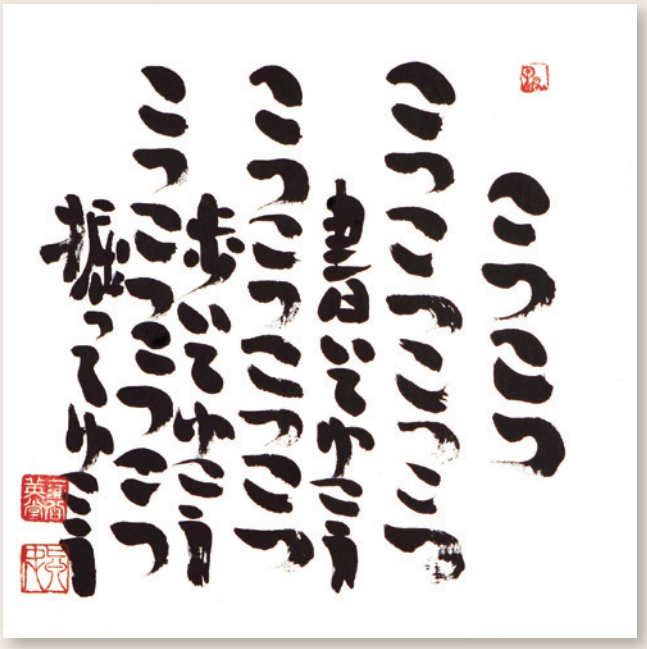
先生の薫陶を受けた私たちは「全師の会」を立ち上げ、母校訪問など韓国との交流を続けています。会員もわずかとなりましたが、母校と恩師の面影はいつまでも消えることはありません。

真民さんからの賀状
（昭和41年）

真民流生き方の真髄は、ゆっくり少しずつ掘り下げて磨いていくこと

「時間をかけて」「こつこつ」





今回は、「こつこつ」（50歳の時の詩）と「時間をかけて」（60歳の時の詩）の二つの詩を読み解いていきます。

この二つの詩は、どちらも坂村真民の生き方を簡潔明瞭に表している詩だと思います。

坂村真民は、小さい時から病弱で、中学生頃までは、学年で一番小さい少年でした。徴兵検査も「筋骨薄弱第二乙」という判定を受け、お国のために役に立たない人間としてレッテルを貼られ、40歳代には生死を彷徨うような大病を患い、普通の人からは一歩も二歩も遅れて人生を歩んできたのです。

そういう中で真民は、普通の人と同じように生きるのではなく、人の起きる前に起き、人より何倍も努力し、自分の花を咲かせるために必死で生きてきました。

真民詩の中でも、自分は晩生（おくて）の人間だから、人より少しでも長生きして、独自の花を咲かせるのだ。天才でない者は努力するほかに道はない。天才でない者は一日でも一時間でも長く生きて自分を成長させ自分の花を咲かせねばならぬ。と書いています。

まず、「こつこつ」というのが、坂村真民の生き方を象徴する言葉であり、真民の生き方そのものであると言えます。

①詩を書くうえでも、人間としてどう生きるかを、苦しみながら、悩みながら、毎日毎日、こつこつと書きつづけること。

②自分が決めた一本の道を、ゆっくりと、一歩ずつ、歩きながら生きてゆくこと。

③そして、一番大切なのが、最後の、「こつこつ、こつこつ、掘ってゆこう」というところではないでしょうか。

真民は、詩を書くことも、仏教の教えを学ぶことも、すべていかに人間として自分を深く掘り下げてゆくか、ということをいつも考え、生きて来た人間です。また、「時間をかけて磨いてゆこう」という言葉も、真民流の生き方の真髄です。

馬鹿にされても、笑われても、自分の道をまっすぐ歩み続けることは、とても勇気がいることです。時には寄り道もするし、少し曲がった道になることもあるでしょう。しかし、どこかで少しずつ修正をしながら、時間をかけて、じぶんの道をまっすぐ歩み続け、自分を磨いてゆくことが大切なのだと思います。

ちょっと手ほどき

砥部時代の真民さん

花ひらく晩年、深まる詩境

それまでの時代が詩魂を養う時期だとすれば、砥部時代は、詩境を深める時期だといえるかもしれません。確固たる生き方が定まった真民さんは、砥部に移り、詩人として花ひらいていきました。

重信川のほとりで

昭和42年、真民さん58歳の年というのは、特別な年だといえるのかもしれません。それまで、自費で出版してきた詩集が少しずつ知られるようになり、ついにこの年、大東出版社から「坂村真民自選詩集」が刊行されました。以後、詩集は出版社から発行されることになります。

また、宇和島から砥部町の重信川のそばに引っ越したのもこの年。砥部では、心許せる友人と出会い、講話の場が生まれ、全国からファンが集まってくるようになりました。この地で、いっそう詩境を深めていきます。

かなしみゆえに
きょうは
わたしの
かなしみゆえに
木が光る
草が光る
石が光る
重信川の
水が光る

紀野一義さんは、次のように読みといています。

夜明け前、重信川の河原で祈りを捧げる毎日だった

人によって、自然が生かされるということがある。人の命の幅が大きくなり、深さが深くなると、なんでもない自然までもが光を放つようになる。「かなしみゆえに」というその「かなしみ」は、はじめたしかに小さな人間の悲しみであったのであろうが、やがてそれは仏の大悲のごときものに変わってゆく。そして、木が光り、草が光り、石が光り、川の水も光り、川の名さえも光るようになる。

山川草木の語りかけを受け止める真民さん。自分の詩が、生きる力をなくしている人の生きる杖になるよう心から願っているから、自然が光を発するようになるのだと、紀野さんは言います。

厳しい自己との闘い

真民さんの自己との闘いは、すこぶる厳しいものがありましたが、それは砥部に落ち着き、子どもたちが巣立って経済的な安定を得てからも、手綱をゆるめませんでした。

真民さんは創作の厳しさを、次のように語っています。

物を作る人間ってのは危機の中にあって、初めて物ができるんです。…ゴッホだって、何だって、危機の中で、自分の生命を燃やしたから、その作品が今日、人を生かしているんです

孤高の鷹のごとく

大東出版社の岩野喜久代さんは「鷹」という真民詩をあげて、次のように語っています。

私はあたたかいしんみん詩も好きだが、凛凛として人を寄せつけぬ毅然たる詩も好きである。

優れた詩人は、この鷹のように、阿諛迎合する同類など従えず、ひとりの眷族もなく、ただひとり絶壁の上から、はてしない天地を睨んで、その中に合一しようとするものである。きびしく、冷たく、寂しく、悲しい宿命が詩人にはある。

真実を見つめ、成熟を求めて、孤高の境涯に身を置く真民さんの本質を、見事に浮かび上がらせた表現ではないでしょうか。

真民さんのその姿勢は、晩年においても変わりませんでした。

朴庵例会の様子

※引用は、「白鳥の歌びと―坂村真民」（紀野一義）、「さかむらしんみんさんの風光」（岩野喜久代）より、「鷹」は昭和35年発行の「梨花」に所収

企画展のお知らせ

「砥部時代の坂村真民」

今年の企画展は、砥部時代の坂村真民展を2部構成で開催します。

第一部

期間　平成26年 6月7日(土)～10月5日(日)(予定)

砥部に住みついてから新田高校を退職して「詩作一筋の生活」が始まり、「自選詩集」が全国に広がり、新たな詩集や随筆集の出版も実現する。

その間、砥部の地で心から語り合える友と出会い砥部に住む喜びを感じて生きた真民58歳から80歳までの時代(昭和42年4月～昭和64年1月)

第二部

期間　平成26年 10月10日(金)～平成27年 3月1日(日)(予定)

「朴庵例会」、「全国朴の会」に全国から新たなファンが集まるようになり、「念ずれば花ひらく」の詩碑も全国に広がりを見せる。

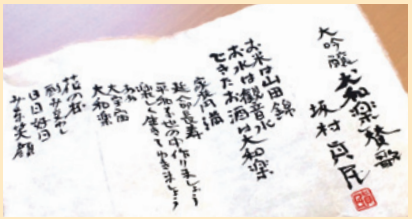
一方では、妻が病に倒れその看病に苦しむ「試練」の時を経て、人生の最期を一人の人間として生きることを選択し、「真民流の生き方」を貫いた、真民80歳から97歳の最後を迎えるまでの時代(平成元年1月～平成18年12月)

第1部、第2部ともに、それぞれの時代に出会った人々や、真民が影響を受けた方々を紹介するとともに、その時代の代表的な詩を展示し、紹介しています。坂村真民の詩の世界の集大成とも言える「砥部時代」をより広く深く理解してもらうことが出来る企画展となりますので、是非ご来館ください。

注目!!

ミュージアムショップ拝見

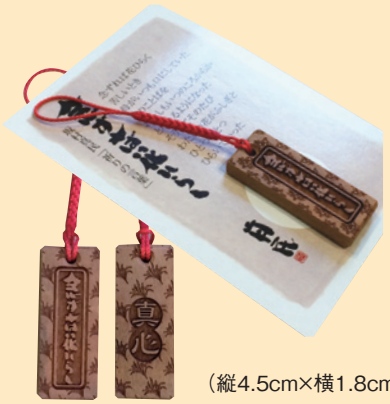
人気モノを紹介します!



宇都宮酒造の日本酒

西予市宇和町にある蔵元「宇都宮酒造」は生前の真民さんと親交がありました。その縁で、真民さんの書いた文字を、「大和楽」と「千鳥」のラベルに使っています。宇和盆地は、寒暖の差が激しく、美味しい米づくりに最適です。また、ここは名水の地としても有名。明治43年創業の老舗の美酒を、ぜひ味わってください。

◆大吟醸「大和楽」720ml　4000円(税込)
◆純米吟醸「千鳥」720ml　1620円(税込)



「祈りの言葉」のストラップ

表は真民さんの書で「念ずれば花ひらく」の文字。裏には「絆」「希望」「笑顔」「真心」「躍動」「本気」の6種類の文字が、それぞれ木に彫り込まれています。言葉によって柄が異なるこだわりも。好きな言葉を選んで自分で持つのも、大切な人にプレゼントするのもいいですね。

(縦4.5cm×横1.8cm×幅5mm)　各540円(税込)

PLAZA

経営理念　最大の会社より最良の会社
人さまに喜んで頂く仕事と自分づくりをする

［パチンコ店経営］
株式会社 宣翔物産
〒812-0857 福岡市博多区西月隈3-6-17 Tel 092-475-1151

［関連グループ会社］
株式会社 クリオ ホテルクリオコート博多
〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街5-3 Tel 092-472-1111

真民先生の原点は、

自分の力で出来る範囲内でする。

他人の力を借りてまで、やることはしない。

であったと思う。

「尊いのは足の裏である」の詩にあるように、自分自身の足を支えるのは、自分1人であり、支えられている自分は自分自身の足の裏2本のおかげ、なのです。

南木曽木材産業株式会社
〒399-5302 長野県木曽郡南木曽町吾妻1187 代表取締役 柴原 薫
TEL 0264-57-4000 FAX 0264-57-2006 http://www.nagiso.co.jp/ メール kao@nagiso.co.jp

今

大切なのは、

かつてでもなく、これからでもない。

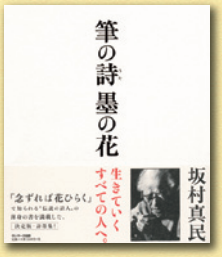
一呼吸一呼吸の今である。

医療法人 誠志会
TOBE HOSPITAL 砥部病院

〒791-2114 愛媛県伊予郡砥部町麻生40-1 TEL089-957-5511

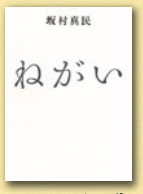
坂村真民記念館
所蔵の作品を満載！

筆の詩（うた） 墨の花

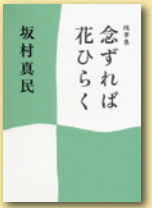


定価＝本体3500円＋税

サンマーク出版 坂村真民の本



ねがい
東日本大震災復興への祈りをこめた特別版詩集。
定価＝本体950円＋税



随筆集 念ずれば花ひらく
随筆集 めぐりあいのふしぎ
随筆集 愛の道しるべ
定価＝本体各1800円＋税

詩集 念ずれば花ひらく
詩集 二度とない人生だから
詩集 宇宙のまなざし

刊行後16年で10万部の超ロングセラー！

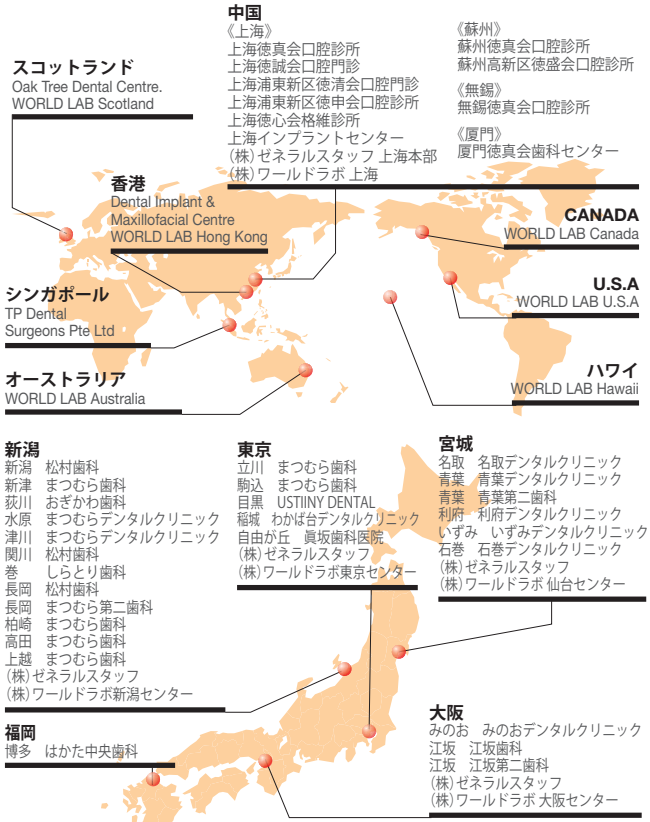
定価＝本体各1000円＋税

いま届けたい、生き方の道しるべ

サンマーク出版 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-16-11 http://www.sunmark.co.jp
TEL 03 (5272) 3166 FAX 03 (5272) 3167

医療法人 徳真会グループ

時代先駆の歯科医療グループを目指して



新潟

松村歯科 新潟診療所	☎025-201-1885
まつむら歯科 新津診療所	☎0250-24-6688
おぎかわ歯科	☎0250-23-4880
まつむらデンタルクリニック 水原診療所	☎0250-62-2151
まつむらデンタルクリニック 津川診療所	☎0254-92-0150
松村歯科 関川診療所	☎0254-64-1201
しらとり歯科	☎0256-72-1771
松村歯科 長岡診療所	☎0258-28-4108
まつむら第二歯科（長岡市）	☎0258-31-7202
まつむら歯科 柏崎診療所	☎0257-20-0310
まつむら歯科 高田診療所	☎025-521-6780
まつむら歯科 上越診療所	☎025-522-6001

宮城

いずみデンタルクリニック	☎022-253-1588
青葉デンタルクリニック	☎022-348-2125
青葉第二歯科	☎022-348-1085
利府デンタルクリニック	☎022-766-4130
名取デンタルクリニック	☎022-381-0921
石巻デンタルクリニック	☎0225-25-5088

大阪

江坂歯科	☎06-6386-0233
江坂第二歯科	☎06-6310-7660
みのおデンタルクリニック	☎072-749-2080

東京

まつむら歯科 駒込診療所	☎03-3949-8818
まつむら歯科 立川診療所	☎042-538-1088
USTIINY（アスティーニ）	☎03-6431-8633
わかば台デンタルクリニック	☎042-350-5671

福岡

はかた中央歯科	☎092-892-5134

中国

厦門徳真会歯科センター	☎86-592-2290088
上海徳真会口腔診所	☎86-21-5208-0208
上海徳誠会口腔門診	☎86-21-6340-0290
上海浦東新区徳清会口腔門診	☎86-21-5030-7858
上海浦東新区徳申会口腔診所	☎86-21-6856-1040
上海徳真会格維診所	☎86-21-3366-6129
蘇州徳真会口腔診所	☎86-512-6763-5720
蘇州高新区徳盛会口腔診所	☎86-512-6803-2501
無錫徳新会口腔診所	☎86-510-85281121
Branemark Osseointegration Center	☎86-21-6289-8101

株式会社ワールド・ラボ

新潟センター	☎0250-23-2009
大阪大阪センター	☎06-6190-2660
仙台センター	☎022-348-1206
東京センター	☎03-6431-9239
WORLD LAB U.S.A	☎1-949-727-0121
Ultimate Styles Dental Laboratory	☎1-949-727-0822
徳真会歯科制作(上海)有限公司	☎86-21-5270-1325

株式会社ゼネラルスタッフ

本　社	025-201-1183
新津本部	0250-25-2016
東京本部	03-6431-9809
大阪本部	06-6310-6066
上海本部	86-21-6340-0316

医療法人
徳真会グループ
www.tokushinkai.or.jp

坂村真民記念館友の会 会員募集中

坂村真民記念館友の会は、会員の皆様と記念館との交流を図り、記念館を共に支え、育てていくことを目的とした会です。入会された方には会報と、真民グッズなどの記念品を贈呈します。

パスポート会員 年会費2000円	特典	会員証で入館無料1人 ほか
一般会員 年会費5000円	特典	会員証で入館無料1人 ほか
特別会員 年会費10,000円	特典	会員証で入館無料2人 ほか
法人会員 年会費10,000円	特典	会員証で入館無料2人、観覧券10枚贈呈 ほか

詳しくはホームページをご覧下さい　坂村真民記念館　友の会　検索

〈編集後記〉　東京と砥部でのダブル企画展も終りが近づき、ほぼ目標を達成できそうなので少し気持ちが楽になっています。皆さんのご支援とご協力の賜物であり、心より感謝いたします。しばらくは休養して次の企画展の準備を始めないといけません。来年の開館3周年記念特別展をどうするか。皆さん何かアイデアがあれば教えてください。現在思案中です。よろしくお願いします。（西）

タンポポだより vol.9 夏号
平成26年6月1日発行　　表紙写真：西澤孝一
発行元／坂村真民記念館友の会事務局
〒791-2132 伊予郡砥部町大南705　坂村真民記念館内
TEL089-969-3643　FAX089-969-3644

［坂村真民記念館］
開館時間／9～17時（入館は16時30分まで）
休館日／月曜（月曜が祝日の場合は翌日）、12月29日～1月1日
入館料／65歳以上300円、一般400円、高校生・大学生300円、小・中学生200円　※15人以上の団体は割引あり